

関口存男における前置詞auf

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 清昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/243

関口存男における前置詞 auf

佐藤 清昭

(日本語・日本事情)

Die Präposition "auf" bei Sekiguchi T.

SATÔ Kiyooki

Japanisch u. Japanische Angelegenheiten

Zusammenfassung

Der japanische Philosoph und Sprachwissenschaftler SEKIGUCHI Tsugio (1894-1958) wollte nach seinem monumentalen Werk "Der Artikel" (Tokyo 1960/61/62, 3 Bde., insgesamt 2 301 Seiten) Arbeiten wie "Die Präposition", "Das Adjektiv", "Das Adverb" u. a. schreiben, die aber wegen seines Todes nicht ausgeführt werden konnten. Uns, die ihm nachfolgenden Forscher, interessiert nun, was für Werke über diese Themen in Bezug auf Inhalt, Form und Umfang entstanden wären.

Die Absicht der vorliegenden Arbeit besteht darin, die Bedeutungstypen ("imi keitai") der Präposition "auf", die sich bei SEKIGUCHI's zahlreichen Werken und bei seiner Sammlung der Beispielsätze, Collectanea, befinden, aufzuzählen und ordnungsgemäß darzustellen.

Es lassen sich bei SEKIGUCHI 34 Bedeutungstypen von "auf" feststellen, die teilweise in Über- und Unterverhältnissen stehen.

Key words: SEKIGUCHI Tsugio, grammar, preposition, German preposition "auf"

キーワード: 関口存男, 意味形態, 前置詞, auf

0. はじめに

0.1. 筆者は、2000年に発表した「関口存男による前置詞の意味分類 — 『激突急停止のin』(ほか)と『前置詞論』—」において次のことを試みた¹⁾。

前置詞について、関口存男の代表的な著作すべてと文例集において認められる「意味内容の分類」と「命名」をできるかぎり漏れなく取りだし、アルファベット順に並べる。

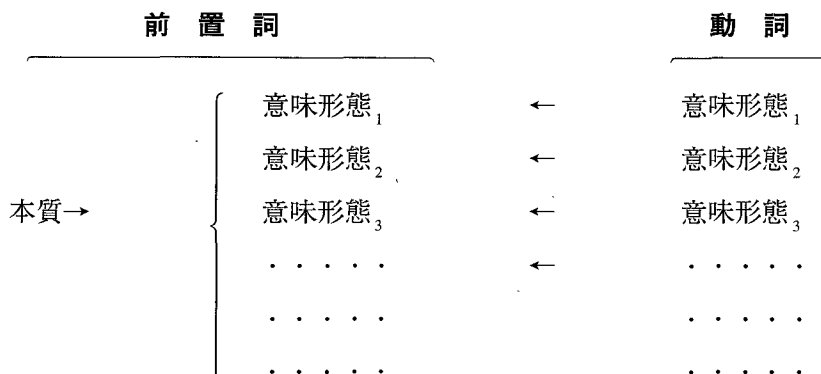
同論文で続いて主張したことは、この「意味内容の分類」の「羅列」間に一定の「秩序」を与える必要性であった。この「羅列」に学問的意味を与えるためである。その「秩序」は、以下の関係、あるいは区別を認識することにより得ることができる。

- 1) それぞれの前置詞が「それ自体」としてもつ意味内容 (System-Bedeutung) と、そこから「派生した」意味内容という「上位と下位の関係」
- 2) System-Bedeutung から派生した「意味内容」の間で認められる「上位と下位の関係」(「Aという意味項目はBに包摂される」という関係)
- 3) 「具体的な文脈」に無関係な意味内容と、「具体的な文脈」内ではじめて生じる意味内容との区別

0.2. 筆者が2002年にまとめた「前置詞研究のあり方 『関口存男：前置詞論』試案 — anを例として」ではまず、関口が「前置詞論」の基本的構想を次のように考えていたとした²⁾。

それぞれの前置詞の「意味の類型」(=意味形態)を的確、かつ明確に規定し、それら「類型」間の系統関係を求める。その際のより所(識別点)は、その前置詞が「どういう意味形態の動詞と結びつくか」である。

しかし前置詞の「意味形態」が、一方的に(それを支配する)動詞の影響のもとに生じるわけではなく、そこには当然、「前置詞の側からの働きかけ」も存在するはずである。その間の関係を筆者は次のように図示した。



同論文では続いて an についてその「本質」をあげ、次にその意味形態を、「具体的・空間的なグループ」から「抽象的・象徴的なグループ」へとならべて、それぞれに関口による例文と説明ほかを示した。

0.3. 本稿においては前置詞 auf について、関口存男が確認した意味形態（意味内容の種類）を挙げ、その間の相互関係を求める。

1. 全体像

以下、明らかにグループをなす意味形態をまず示し、単独のものをそれに続ける。最初に挙げた8つのグループは、関口がそれらの関連性に言及した場合と、佐藤の判断によるものに分かれる。**[説明]** において特に相互の関連性に触れていない場合は佐藤の判断によるものである。

- ① 途上の auf
 - ② 警戒態勢の auf
 - ③ 間柄の auf
-

「見地」という考え方

- ④ 吟味見地の auf
 - ⑤ 異変肢節の auf
-

「展張」という考え方

- 展張方向の auf
 - ⑥ 予想期間
 - ⑦ 期間
 - ⑧ 予想時点
 - ⑨ 時点
 - 展張限度の [bis] auf
 - ⑩ 詳しさ
 - ⑪ 極端さ
 - ⑫ 除外の bis auf
 - ⑬ 副詞の最高級
-

⑭ 襲い掛かりの auf

⑮ 狙う目標の auf

⑯ 用件の auf, 用向きを指す auf

⑰ 達する目標

⑱ 限度の auf, 拳数の auf

⑲ 働きかけの auf

⑳ 即応の auf

㉑ 行動の出立点・立脚点・前提・基礎・根拠を指す auf ... hin

㉒ 執着の auf

㉓ 軽蔑の auf

㉔ 移行, 到着の auf

㉕ 結果の auf

㉖ 場所の auf, 公開的な場所の auf

㉗ 島, 半島, 星の世界などの auf

㉘ 比率単位を表現する auf

㉙ 距離

㉚ 制限の auf

㉛ 基礎の auf

㉜ 通路の auf

㉝ 線上の auf

㉞ 楽器など

2. 各論

① 途上の auf

[格支配] 3格

[例]

auf der Reise 旅先で | *auf dem Wege* 途上 | *auf einem Spaziergang* 散歩の途中 | *auf dem Transport* 輸送の途上で | *auf einem Ausritt* 騎行中 | *auf einer Bootfahrt* ボートで行く途上 | *auf der Wanderung* 徒歩旅行先で | *auf Patrouille* 巡邏中 | *auf dem Marsch* 行進中

auf der Suche nach ... ~を求めて | *auf der Flucht vor ...* ~を逃れて, ~を避けて | *auf dem Wege zu ...* ~への途上 | *auf dem Sprunge nach ...* ~への途上 | *auf der Jagd nach ...* ~を猟って | Die Wahlen zum Deutschen Bundestag bedeuten einen ersten Schritt *auf dem Wege* zur politischen Einigung Deutschlands. (Z. 1949)

[説明]

- 「① 途上の auf」は、空間的表象としては、*auf der Straße* の auf などと同じように、その次に来る名詞を、道路、あるいは行程と考える。すなわち動作名詞としてではなくて、純名詞、すなわち物型として考えるのである。
- 「② 警戒態勢の auf」, 「③ 間柄の auf」は、この「① 途上の auf」の類似形態である。
- 後出「⑩ 用件の auf」は「① 途上の auf」を4格支配に変えて指向性を持たせたもの。
- 上の【例】のうち、*auf der Suche nach ...* で始まる第2グループのように迂言前置詞（複合前置詞、前置句）を作る場合も、後ろに来る名詞の定冠詞を省略しないで温存する傾向がある。

[参照箇所]

文例集 (28) 前置詞 (一般): 14 ページ; 文例集 (70) *auf, aus*: 30 - 47 ページ; ドイツ語前置詞の研究: 80 ページ; 冠詞 I: 879, 885 - 888, 933 - 936 ページ。

② 警戒態勢の auf

[格支配] 3格

[例]

auf der Hut sein 用心する | *auf der Lauer liegen* 待ち伏せしている | *mit j-m auf dem Kriegsfuß stehen* ~と緊張した関係にある | *mit j-m auf gespanntem Fuß stehen* (同意) | *auf dem Punkte sein, ... zu ...* まさに云々せんとする一歩手前にある | *auf dem Sprung sein, ... zu ...* (同意)

[説明]

- 「警戒態勢」にどうして「上」*auf* という空間関係が用いられるかというわけは、人間の足 (Füße, Beine) を考えるとわかる。*auf den Beinen sein* ということは、坐っていた人間が起立することであり、したがって「警戒態勢」を取ることであり、あるいは「途上にある」ことである。
- 「警戒態勢の *auf*」は、「途上の *auf*」の類似形態であり、またこの「警戒態勢の *auf*」から次の「間柄の *auf*」が発展したのではないかと推測される。

[参照箇所]

冠詞 I: 887 - 888 ページ。

③ 間柄の *auf*

[格支配] 3 格

[例]

Mit diesem Doktor Eberhard hätte sich *auf* dem Fuß einer guten Kameradschaft angenehm verkehren lassen. このドクトル Eberhard 氏となら、好いお友達という関係で、気持ちよく交際することができたに違いない | mit j-m *auf* gleichem Fuß (または *auf* Du und Du; *auf* du und du; *auf* gleich und gleich) stehen ~と対等の関係に立つ | mit j-m *auf* vertrautem Fuß (または *auf* freundschaftlichem Fuß; *auf* gutem Fuß; *auf* dem besten Fuß; *auf* intinem Fuß) stehen (または leben) ~と親しい間柄である | sich mit j-m gleich *auf* einen kollegialen (または kameradschaftlichen) Fuß stellen ~とすぐに同僚関係でつき合ってしまう | mit j-m *auf* Grußfuß stehen ~と、逢うと挨拶を交わす程度の間柄である。

[説明]

- 「間柄の *auf*」は、「途上の *auf*」の類似形態であり、また「警戒態勢の *auf*」から発展したものではないかと推測される。

[参照箇所]

冠詞 I: 887 - 888 ページ。

「見地」という考え方から以下の二つの意味形態が一つのグループにまとめられる。

④ 吟味見地の *auf*

[格支配] 4 格

[例]

Wollen wir seine Behauptung *auf ihre Wahrheit* [hin] prüfen. 試みに彼の主張を取ってその真偽を調べてみよう | Es ist typisch weiblich, die Taschen des Mannes *auf ihren Inhalt* zu untersuchen. (Z. 1936) | Im gesamten Bundesgebiet werden Luft und Niederschläge jetzt laufend *auf radioaktive Beimengen* überprüft. (Z.)

[説明]

- prüfen 調べる, untersuchen 調べる, ansehen 観察する, erkennen 判断する, beurteilen 判断する, betrachten 観察する, zergliedern 分解する, sezieren 解剖する, kritisieren 批評する, その他とにかく或るものを扱って「その云々なるや如何」を調べつつ行う動作には, その「云々なるや如何」という点, すなわち吟味の際の着眼点を言い表すのにこの *auf ...* または *auf ... hin* という形式を用いる。

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞: 224 - 231 ページ; 和文独訳の実際: 96 - 100 ページ; 冠詞 I: 954 - 955 ページ。

⑤ 異変肢節の *auf*

[格支配] 3 格

[例]

du weißt ja doch, daß ich *auf dem rechten Ohr* nicht gut höre. (Droste-Hülshoff) | schwach *auf der Brust* sein 胸が弱い | *auf einem Ohr* taub sein 片耳が聞こえない | gesund *auf der Lunge* sein 肺が丈夫である | *auf einem Fuße* hinken 片足が不自由である。

[説明]

- ドイツ語では身体の故障異変を表現する際の Lokativ (つまり「見地」) としてはもっぱら *auf* が用いられる。
- 「異変肢節の *an*」も参照。

[参照箇所]

文例集 (70) *auf, aus*: 200 - 204 ページ; 冠詞 I: 257, 954 ページ。

「展張」(sich erstrecken, sich ausdehnen), つまり空間的・時間的・抽象的に「どこまでも伸びていく, 指向していく」という考え方は, 例えば4格という現象を合理的に整理しようとするならば不可欠な考え方であるが, *auf* に関しても, この考え方に基づいて「展張方向の *auf*」と「展張限度の *auf*」がひとつのグループをつくる。

○ 展張方向の auf

- auf をもって作られる「時の副詞」は、原則として、すべて未来に関するものばかりである。「展張方向」という考え方から言えば、「未来」への展張も「過去」への展張も無ければならないわけかもしれないが、「人間の本性が未来一辺倒の不可逆的指向性を具えたものである」という事実と関係して、すくなくとも時の副詞に関する限り、auf の指向性は未来へだけしか向かない。
- ただし、これも auf の「語そのものの意味」がそうであるというだけの話であり、実際には、未来という観念をはずれた一般的な表現へと移ったものも多い。以下の「⑦ 期間」と「⑨ 時点」である。

[参照箇所]

冠詞 I: 1020 - 1021 ページ。

⑥ 予想期間（未来の期間）

[格支配] 4 格

[例]

Die Schwäche des kleinen Kuno nahm in einer Weise zu, daß der Arzt jeden Unterricht *auf* Jahre hinaus untersagte. (Th. Storm) クーノー少年の衰弱があんまりひどくなってきたので、医者は、ここ数年は一切授業を受けさせないようにと言った | Durch diese Nachsicht sah ich mich *auf* eine Reihe von Wochen noch geborgen. (Keller) この理解ある処置によって、私はその後数週間は安心していられる見込みがついた | Nun haben wir wieder *auf* ein ganzes Jahr Ruhe. (Gustav Nieritz) | Seine Exzellenz / Ersuchen nur *auf* wen'ge Augenblicke / Noch zu entschuld'gen. (Michael Beer) 後もうしばらくお待ちをねがうようにと閣下が仰せになりました | Es gab wenige Tage, an denen das Haus Liek keine Gäste hatte — Gäste *auf* eine Zigarrenlänge, Kaffeegäste, Tischgäste, Wohngäste. (Hugo Holthöfer) Liek 邸に客が無い日は稀であった — ほんの服煙草を吸う間いて出ていくお客、コーヒー一杯のお客、食卓につくお客、泊まり込み客 | ein Vertrag *auf* zehn Jahre 十年間の契約 | ein Kontrakt *auf* unbestimmte Zeit 無期限契約 | *auf* Lebenszeit angestellt 飼い殺し | das Gesetz *auf* 10 Jahre befristen 法令の有効期限を十年間に切る。

[説明]

- 「今後... にわたって」、「これから... にわたる予定で」という関係の副詞句をつくる。
- 展張方向の指向性にさらに念を入れると auf ... hinaus となる。
- auf の次に位置する名詞は、原則として不定冠詞あるいは無冠詞（または数詞を冠置）である。

[参照箇所]

冠詞 I: 1021 - 1023 ページ。

⑦ 期間

[格支配] 4 格

[例]

Kinder, beherrscht euch doch ein bißchen, das hält ja kein Mensch *auf die Dauer* aus! (DIE NEUE POST) 諸君, 少し慎重な態度をとってはどうか。しょっちゅう此の調子でやられた日には誰だって叶わんでしょう | *Auf die Dauer der Zeit kann kein Mensch dieses tägliche Einerlei aushalten.* (Z.) 毎日こう云う風に同じことばかりやっていると、長い間には堪え切れなくなる | *Er sah, daß ers auf die Länge nicht aushalten würde.* (J. H. Jung) いずれそのうちには我慢がしきれなくなると思った | *Bleibt also noch als letztes die Frage zu klären, welchen Schaden solche Entschlüsse auf lange Sicht anrichten können.* (Z.) 故に, なお最後に明らかにしておかなければならない問題は, 此の種の決定が, 長い眼で見て, どんな不利をもたらすかという点である。

[説明]

- 予想でない期間副詞句は大抵 *für* で表現されるが, *auf die Dauer* (「長い間には」, すなわち「結局は」= *schließlich, nachgerade*) だけは習慣で *auf* と決まっております, しかも定冠詞を温存する。
- ほかに *auf die Länge, in die Länge*, また英語の *in the long run* の影響かとも思われる *im langen Rennen* がある。

[参照箇所]

冠詞 I: 1023 - 1025 ページ。

⑧ 予想時点

[格支配] 4 格

[例]

Auf heute hatte der Arzt den Eintritt einer entscheidenden Krisis vorhergekündigt. (Immermann) 今日は乗るか反るかの危機になると医者が予言していた | *Auf die zweite Woche des Januar 1414 war der Verhandlungstag angesetzt.* 交渉日は 1414 年一月の第二週と予定されていた | *Der Wahlkampf hat begonnen, der Wahltermin ist auf den 6. September festgesetzt.* (Z.) 選挙戦はいよいよ始まった, 投票日は 9 月 6 日と決定した | *Auf den Abend hoffe ich Sie bei mir zu sehen, und Sie sagen mir dann mehr von Ihrem angefangenen Narziß.* (Mörke) では今晚お待ちしております, その時にまた, 今お取りかかりになった *Narziß* の絵のことをもっと詳しくお伺い致しましょう。

[説明]

- 未来の予想時点の表現としては *für* も可であるが, 指向性の強い「展張方向の *auf*」が非常に適当である。

- 以上の【例】のほかに、特に「延期する」(aufschieben, hinausschieben, vertagen, verschieben)の意の動詞が期日を必要とする場合にはすべて *auf* と結合するであろうし、*Auf Wiedersehen!*, *Auf Wiederhören!*, *Auf bald!*, *Auf morgen früh!* の *auf* もすべて同じ未来への指向性を持った *auf* であり、*warten*, *hoffen*, *sich freuen* などの *auf* 支配も同一の方向に属するものである。

【参照箇所】

冠詞 I: 1025 - 1031 ページ。

⑨ 時点

【格支配】4 格

【例】

Jawohl — die Mannsleut wissen ja *auf* Pfingsten nicht mehr, was sie *auf* Ostern zug'sagt haben. (Charlotte Birch-Pfeiffer) そうですね — 男なんてものは、復活祭に約束したことは、聖霊降誕祭にはもうちゃんと忘れちゃってますよ | *Tritt auf Johanni Regen ein, so wird der Nußwachs nicht gedeih'n.* (Sprichwort) Johannes 祭に雨降れば、胡桃の育ちは悪くなる | *Auf eine Zeit hatten die beiden daheim eine schöne Kost zurechtgemacht, und wie sie nun alle beisammen waren, setzten sie sich, aßen und tranken und waren voller Freuden.* (Grimm: Die zwölf Brüder) あるとき二人は家で大変なご馳走をつくりました。そして、みんなが揃うと、席について、食べたり飲んだりして、はしゃぎました | *Diesen Sommer hab' ich große Fußwanderungen unternommen. Bin sogar Bergsteiger geworden auf meine alten Tage.* (Schnitzler) 此の夏私は大がかりの徒歩旅行を企てた。此の年をして登山家にまでなってしまった。

【説明】

- 予想とか未来とかいった状況を離れて、一般的に「何時」、「何の日に」、「晩に」、「火曜日に」という時点副詞句である。多少古形、方言調と言える。

【参照箇所】

冠詞 I: 1031 - 1035 ページ。

○ 展張限度の [bis] auf

- 展張「限度」とは、どこまでも伸びていき、指向して行って「...に至る、達する、及ぶ、とどく」(あるいは「...に至るまで、...に達するまで」伸びていき、指向していく)という考え方である。bis ... という解釈が可能な考え方であり、この解釈が可能かどうかにより、「展張方向」と区別される。

【参照箇所】

冠詞 I: 1014, 1055 ページ。

⑩ 詳しさ

[格支配] 4 格

[例]

Die Tagesordnung wird *auf* die Minute eingehalten. (Z.) 日程は分秒たがえず恪守される | “Du Simpel! vierzehn Jahre brauchst du, um so etwas zu merken!” Es waren zufällig *auf* den Tag vierzehn Jahre. (Emil Strauß) 「頭が悪いな、お前は！それくらいの事に気がつくのにまる十四年かかったのか！」—云われてみるとなるほど、それが丁度十四年目の、日まで同じ日だった | Es soll den Personen der Oper eben nicht “*aufs* Wort” geglaubt werden, sondern *auf* den Ton! (Nietzsche) 歌劇の中に登場する人物の云う事を「言葉通り」真に受けるのは間違っている。「節通り」真に受けるのではなくては困る | Aber dann rasselten die Maschinengewehre und sprühten über den Paß wie ein tödlicher Regen. Jede Entfernung war *bis auf* den Meter bekannt. (Heinz Geck) ところが、とたんに機関銃がバリバリッとおいでなすって、峠は銃弾雨飛、身を寄せる隙もない。どの地点も、何メートルというところまで射程が知れてしまっているのだ | Was ihr für mich bezahlt habt, kriegt ihr wieder *auf* Heller und Pfennig. (Döblin) 諸君が僕に立て替えて払ってくれた金は一銭一厘のはしたまで必ず返す。

[説明]

- *auf* die Minute genau 「分秒違えず」や、それに類似した *aufs* Haar (*auf* ein Haar), *aufs* Wort, *auf* den Tag など、展張限度の [*bis*] *auf* によって「詳しさ」の程度を誇示する。

[参照箇所]

文例集 (70) *auf*, *aus*: 334 - 339 ページ; 独語文化 (日光書院) Okt. 1942: 52 - 53 ページ; 冠詞 I: 1042 - 1045 ページ。

⑪ 極端さ

[格支配] 4 格

[例]

Man muß aber noch weiter gehen und auch dem “atomistischen Bedürfnisse” [...] den Krieg erklären, einen schonungslosen Krieg *aufs* Messer. (Nietzsche) 百尺竿頭さらに一步を進めて、いわゆる「個人各個主義的性向」にも戦を宣する必要がある、容赦なき殲滅戦を | Der Nebel, der über sie gefallen war, der dichte, trostlose Nebel, belebte sich nun mit Gestalten, die sie *bis aufs* Blut ängstigten. (H. Böhlau) かれらの四囲を包んだ霧、一寸先も見えぬ、気も滅入るような霧は、たちまちにして異形の姿に賑わいはじめ、かれらは息の根もとまるかとおもうほどびくびくした | Unter “Hämmchen” hatte ich mir eine Miniatur vorgestellt und war *auf* den Tod erschrocken, als ich ein ausgewachsenes, strammes Hamm (Eisbein mit Sauerkohl) aufgetischt bekam. (H. Reimann) Hämmchen というから、さぞかし何かチツチャな可

愛いものだと思ったら、出てきたのを見ると、一人前の図体をした、筋骨たくましき Hamm (塩漬けキャベツをあしらったアイスバイン) だったので、腰をぬかさんばかりにおどろいた。

[説明]

- 前項⑩は「詳しさ」あるいは「厳密さ」の誇張的規定の場合であるが、展張限度の [bis] auf がその外に「極端さ」の誇張的規定としても慣用句をつくることはすこぶる自然である。

[参照箇所]

冠詞 I: 1045 - 1047 ページ。

⑫ 除外の bis auf

[格支配] 4 格

[例]

Das Gastzimmer war leer *bis auf* einen Herrn, der anscheinend eingeschlafen war. | Sie sprach ein vollkommenes Deutsch *bis auf* einen leisen Akzent, der ihre englische Abstammung verriet. | *Bis auf* weiteren Befehl soll er mir hier in dem Zimmer bleiben. 別命あるまで此の男は此の部屋に待たせておけ | Jedwede Tugend ist fleckenfrei — *bis auf* den Augenblick der Probe. (Schiller) 徳はすべて無垢完璧でござる — 試練の時の到るまではさ。

[説明]

- 「展張限度」は、展張がその終止点にまで及ぶか、その終止点の一步手前で停止するのか、つまりその終止点を含むか含まないかという点で、両方の意が生ずる可能性をその内に含んでいる。*bis auf* ... にはその両方の場合があるが、「除外の *bis auf*」は終止点を含まない場合である。
- この一見甚だ奇妙な現象は、時間的展張限度の *bis auf* の類造によって生じたものと考えると合理的に説明される。時間的展張限度の *bis auf* とは上の [例] の第3番目と4番目に示されているものである (*Bis auf* weiteren Befehl; *bis auf* den Augenblick)。

[参照箇所]

冠詞 I: 1047 - 1048 ページ。

⑬ 副詞の最高級

[格支配] 4 格

[例]

aufs beste (*auf* das beste) | *aufs* tiefste | *aufs* schnellste.

[説明]

- 展張限度の *auf* は、もっとも普通な形としては形容詞の最高級形と結びついた「最高限度の副詞」として現れる。副詞の最高級の *auf* が実は *bis auf* であって、展張限度表現の前置詞であることを確認しておくことは重要である。

[参照箇所]

冠詞 I: 1049 ページ。

⑭ 襲い掛かりの *auf*

[格支配] 4 格

[例]

auf ... los | *auf ... zu* | *auf ... ein-* (前つづり) | *Der Run auf die Kassen* | *Der Sturm auf die Lebensmittelhandlungen setzt ein.*

[説明]

- 次の「⑮ 狙う目標の *auf*」の **[説明]** を参照。

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞: 273 - 274 ページ。

⑮ 狙う目標の *auf*

[格支配] 4 格

[例]

auf ... bedacht ~を心がけた, 目ざした | *auf ... erpicht* ~を狙った | *auf ... versessen* ~に夢中になった | *auf ... gespannt* ~に全注意を向けた | *auf ... eingerichtet* ~向きにしつらえた | *auf ... eingestellt* ~にピントを合わせた, ~向きの | *auf ... abgerichtet* ~向きに仕込まれた | *auf ... zugeschnitten* ~向きの | *auf ... aufmerksam* ~に注意した | *auf ... berechnet* ~を当て込んだ。 *auf ... lenken / richten / zuwenden* ~に向ける | *auf ... warten* ~を期待する | *auf ... abzielen* ~を狙う | *auf ... anspielen* ~をあてこする | *auf ... lauern* ~を待ちかまえる | *auf ... hoffen* ~をあてにする | *auf ... rechnen* ~をあてにする | *auf ... lauschen* ~に耳をそばだてる | *auf ... deuten / zeigen / weisen* ~を指す | *sich auf ... vorbereiten* ~の準備をする | *sich auf ... verlegen* ~に夢中になる。

der Anschlag *auf*... ~に対する陰謀 | der Überfall *auf*... ~に対する襲撃 | der Raubüberfall *auf*... ~に対する略奪行為 | die Forderung *auf*... ~に関する要求 | der Anspruch *auf*... ~に対する権利主張 | die Aussicht *auf*... ~の見込み | die Hoffnung *auf*... ~の見込み | die Anspielung *auf*... ~をほのめかす事 | die Spottverse *auf*... ~に対する風刺詩。

[説明]

- *auf* と 4 格は、具体的空間的に用いると、ある物の表面または上部に向かってする運動を表わすのであるが、もう一 *Er schlägt auf mich los.* (彼は私を目がけて打ってかかる：「⑭襲い掛かりの *auf*」) となると、単なる運動の目標という以外に、多少抽象的な「目標」すなわち、これぞと目指した、意志の向かう先の目標を表しかかっている。これが発達したのが、抽象的な意味における「⑮目標の *auf*」である。
- (佐藤：) 同じ用法が文例集には「適合の *auf*」として現れる (文例集 (70) *auf, aus* : 374-375 ページ) : *Der Schütze stellt das Visier auf 200 Meter.* | *die Uhr auf 3 Uhr stellen* | *einen Hund auf Jagd abrichten.*

[参照箇所]

和文独訳の実際：229 - 233 ページ。

⑯ 用件の *auf*, 用向きを指す *auf*

[格支配] 4 格

[例]

Er war nur auf Urlaub in seiner Heimat. 彼はただ休暇を利用して故郷に帰ってきていたに過ぎなかった | *Ich besuchte ihn regelmäßig und nahm ihn auf Spaziergänge mit.* 私は規則正しく彼の所へ出かけていって、散歩に連れだした | *Wollen wir nicht auf ein Glas Bier hineingehen?* ちょっとビールでも一杯飲みに入ろうじゃないか | *auf Besuch dasein* 訪問に来ている | *auf Abenteuer ausgehen* 冒険に出かける | *j-n auf Botschaft ausschicken* ~を使いに出す | *auf den Bettel herumziehen* 乞食して回る | *j-n auf Kundschaft schicken* ~を偵察に出す | *auf Spähe* (または *Spionage*) *gehen* スパイに行く | *auf die Jagd gehen* 狩りに行く | *auf die Streife gehen* 遊撃に出る。

[説明]

- 「⑯用件の *auf*」は、*auf etwas los* (「あるものに『向かって』, 「あるものを『めがけて』」) などの *auf* (「⑭襲いかかりの *auf*」) が、抽象的に用いられて、「目的」の概念を伴うにいたったと考えられる。*auf daß* ... (= *damit* ...) に現れている *auf* と同じ現象とすることができる。
- この *auf* の次に来る名詞は必ず「出動の用向き」を指す動作名詞 (*nomen actionis*) であるか、それとも、そうした動作名詞の代わりに用いられる具体名詞または抽象名詞 (*ein Glas Bier, ein Wort, eine Prise Tabak*) でなければならない。

- この「用件の auf」は、「① 途上の auf」ともつながっており、「① 途上の auf」を4格支配に変えて指向性を持たせたものと考えられる。

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞：281 - 290 ページ；ドイツ語前置詞の研究：77 - 80 ページ；独作文教程：496 - 498 ページ；冠詞 I：888 ページ。

⑰ 達する目標

[格支配] 4 格

[例]

Angesichts der zarten Farben ihres Gesichts hätte man nicht *auf* dreißig, sondern *auf* dreiundzwanzig geraten.

[説明]

- この用法は、「⑮ 狙う目標の auf」と、「⑱ 限度の auf」との中間現象である。上例の過去分詞 *geraten* は、*raten* の過去分詞と考えると次項の「⑱ 限度の auf」の用法になるが、これを *geraten* 「陥る」と誤認しても全然意味を成さないではない。*verfallen* と考えても同じであり、その際の *auf* が「達する目標」を指す *auf* である。

[参照箇所]

和文独訳の実際：239 ページ。

⑱ 限度の auf, 挙数の auf

[格支配] 4 格

[例]

Die Aktien stiegen *auf* das Zehnfache ihres ursprünglichen Wertes. 株は原価の十倍にまで騰貴した | Mein Monatsgehalt ist *auf* ein Erhebliches erhöht worden. 私の月給は相当額に昇給した | *auf*... schätzen ~と評価する | *auf*... steigen ~に登る | *auf*... beschränken ~に制限する | sich *auf*... beziffern ~の数字を示す | *auf*... einschrumpfen ~に減ずる | *auf*... wachsen ~に増す | *auf*... ergänzen ~にまで補充する | sich *auf*... belaufen ~に達する | *auf*... sinken ~に落ちる | *auf*... anlaufen ~に達する | *auf*... vermehren ~に増加する。

[説明]

- 数字をもって諸種の程度, 限度, 水準, 規準, 総額などを指さなければならない動詞の大部分は *auf* と4格を支配するのが普通である。

- この用法は、「注意を向けて狙いをつける」という auf (「⑮ 狙う目標の auf」) が、その次には「その目標への到達」を意味するようになり (「⑰ 達する目標」), それが数字などの場合に用いられたものである。
- この auf は bis auf とも言うことがある: Die Summe lief bis auf 500 Euro an.

[参照箇所]

和文独訳の実際: 101 - 103 ページ; 冠詞 II, 233 ページ; 文例集 (29) 前置詞: 336 - 337 ページ。

⑲ 働きかけの auf

[格支配] 4 格

[例]

Zu allen anderen Bedrängnissen hatte sich Hans sehr gegen den Zauber zu wehren, welchen das schöne Mädchen auf ihn ausübte. (Raabe) | Diese Rede machte auf Hans einen größeren Eindruck, als ihm der Oheim anmerkte. (Raabe) | Was ihr anfangs Spaß machte, ging ihr schließlich auf die Nerven. | dass das Leben — ideologisch gesehen — ein Strukturgewebe von Ideen sei, die sich gegenseitig abschleifen und aufeinander einspielen. (H. Thieliicke) | auf ... einwirken | auf ... Einfluß ausüben.

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞: 232 - 239 ページ。

⑳ 即応の auf

[格支配] 4 格

[例]

Auf Regen folgt Sonnenschein. | Bier auf Wein, / Das laß sein; / Wein auf Bier, / Das rat' ich dir. 葡萄酒飲んでビール飲む, どっこい, そいつは止したがよい。ビールにかぶせて葡萄酒なら, こりゃママ大いにやり給え | Das Echo der Parteien in Bonn auf die Rede Adenauers ist zwiespältig und ... | Er reagierte nicht darauf. | Minute auf Minute vergeht, und die ersehnte Antwort will nicht eintreffen. (Gutzkow) 時間は一分一分と経過してゆくが, 待望の返事はいつまで待っても来そうにない | auf Kommando aufstehen 号令で起立する | auf eins zwei drei starten ワンツースリーでスタートを切る | auf Wunsch des Leserkreises 読者の求めに応じて | Prospektblatt auf Wunsch.

【説明】

- 「あることに即座に応じて...する」の意味。
- 「㊸即応の auf」の次に用いる名詞はすべて「動作名詞」あるいはその意味形態のものでなければならない。
- 「㊸即応の auf」は bei で表現することも多い： *bei seiner Ankunft*。
- 上例に見られるように、「㊸即応の auf」の応用範囲は非常に広い。

【参照箇所】

文例集 (29) 前置詞：199 - 200, 291 - 303 ページ；独作文教程：430 ページ；冠詞 I：878, 1034, III：201 - 203 ページ。

㊸行動の出立点・立脚点・前提・基礎・根拠を指す auf ... hin

【格支配】4 格

【例】

Es ist Unrecht, Menschen *auf* einen bloßen Verdacht *hin* zu beschuldigen. 単なる嫌疑のみによって人に罪を着せるのは不法である | Ich habe es *auf* Ihre Behauptung *hin* angenommen. 私はあなたがそう仰ったからそう思ったのです | *Auf* Autorität *hin* glauben ist naiv. 権威によって物を信ずるのは素人考えだ | *auf* Zeugenaussagen *hin* 証人の供述に基づいて | *auf* Sinnestäuschungen *hin* 錯覚から出立して | *auf* einen flüchtigen Eindruck *hin* ちょっとした印象を信じて | *auf* grundlose Gerüchte *hin* 無根の風説を信じて | *auf* eine anonyme Angabe *hin* 匿名の密告に基づいて。

【説明】

- 「～を基礎として」, 「～を信じて」, 「～を条件として」の意味。
- *auf Grund* eines bloßen Verdachtes; *an Hand* eines bloßen Verdachtes; *einem bloßen Verdacht zufolge* と言うこともできる。
- *hin* は省略されることもあるが、省略しない方が意味が明確である。
- この auf の用法から、次のような熟語が生まれた：*auf* gut Glück 当てずっぽうに | *aufs Geratewohl* でたために | *auf* die Gefahr *hin* ～の危険を冒して | *auf* Tod und Leben 生死を省みず | *auf* Gnad' und Ungnad' 成敗を敵の裁量に任せて (投降する)。
- 行動の根拠ではなく、むしろ発生の契機、認識の拠点ともいう場合は *an* を用いる。

【参照箇所】

和文独訳の実際：235 - 236 ページ；独作文教程：429 - 430 ページ。

② 執着の auf

[格支配] 3格, 4格

[例]

Alles soll, so will es der behagliche Leser, im natürlichen Gange fortgehen; aber auch das Ungewöhnliche kann natürlich sein, scheint es aber Demjenigen nicht, der *auf* seinen eigenen Ansichten verharrt. (Goethe) | Warum versteifte sie sich auch *auf* Richtigstellung solcher Nebensächlichkeiten? (Z.) | Die Idee des sozialen Lebens, wor*auf* die öffentliche Meinung sich am tiefsten festgelegt hat, ist die Idee der persönlichen Freiheit. (Tönnies) | Er (Kapitalist) hat die Arbeitskraft für bestimmte Zeitfrist gekauft. Er hält *darauf*, das Seine zu haben. Er will nicht bestohlen werden. (Marx) | Sie (Sonja Henie) schwört *auf* Sekt, rohe Eier, Sauerstoffinjektionen und tägliche Voll- und Gesichtsmassagen. (Z.) | Hier hast du meine Hand *darauf*, Alte. (Raabe)

[説明]

- 関心, 尊重の対象を表わす。
- 「注目する」, 「意を配る」というのはすなわち「重要視する」。もって「注意の auf」と同一物であることがわかる: Wer sich selbst achtet und von anderen geachtet sein will, sieht der nicht *auf* sein äußeres, hält der nicht *auf* einen gut sitzenden, sauberen Anzug? (Dumcke)

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 167 - 170 ページ。

③ 輕蔑の auf

[格支配] 4格

[例]

nicht viel geben *auf* ... | Du weißt, ich halte nicht viel *auf* solche Vorschläge. (Goethe) | Ich schieß *auf* die Revolution! (Toller) | Ich huste *auf* etwas. (Duden) | Sieh, Harold, jeder zieht sich abends um. Nur du nicht! Du gibst nichts *auf* dein äußeres. (Z.)

[説明]

- 説明法: geringschätzig *auf* et. herabblicken の auf である。
- nicht viel *um* ... geben; sich nichts *aus* ... machen; nichts *von* ... halten を参照。

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 171 - 175 ページ。

②④ 移行, 到着の auf

[格支配] 4 格

[例]

Die Wärme geht stets nur von einem wärmeren Körper *auf* einen kälteren über. | die Mutter versucht das Kind durch Zureden *auf* andere Gedanken zu bringen. | Die Wissenschaft schließt aus der Verwandtschaft der Sprachen *auf* die Verwandtschaft der Völker. | Man kam *auf* das Thema: heiraten. | "Nenne mir einige deutsche Berge !" "Feldberg, Zugspitze, Montblanc, ..." "Wie kommst du denn *auf* den Montblanc ?" "Mit der Zahnradbahn." | sich *auf* etwas zurückführen | *auf* etwas zurückgehen | *auf* etwas zu sprechen kommen | sich *auf* Einzelheiten einlassen.

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞 : 240 - 267 ページ。

②⑤ 結果の auf

[格支配] 4 格

[例]

Die menschlichen Interessen sind nicht leicht *auf* einen gemeinsamen Nenner zu bringen. | Die Kristallkunde hat die unendliche Zahl der Kristallgestalten *auf* sechs Grundformen zurückgeführt. | *auf* eine Formel bringen.

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 189 - 192 ページ。

②⑥ 場所の auf, 公開的な場所の auf

[格支配] 3 格, 4 格

[例]

Immer ernster wird die Konkurrenz der japanischen Industrie *auf* dem Weltmarkt. (Z.) | Außenminister Dulles ist am Dienstag *auf* einer Pressekonferenz auf die Frage direkter Gespräche zwischen den Vereinigten Staaten und Peking eingegangen. | Sie leben sehr armselig in einer Baracke *auf* dem Dorf. (Z.) | Heute herrscht *auf* der Rennbahn Großbetrieb. (Duden) | Vorgestern wurde ich *aufs* Amt bestellt. (Z.) | Er hatte es *auf* einer Auktion ersteigert. | *Auf* unserer Farm wird sechs Stunden pro Tag gearbeitet. (Z.) | *auf* die Universität ziehen.

[説明]

- 必ずしも「公開の場」ではない。もっとも私的な「トイレ」でも auf を使う： Soudek hatte ein Mißgeschick. Er bekam Durchfall. Als Wong einmal in die Stadt fuhr, mußte sich Soudek *auf dem W. C.* aufhalten. (Neue Rundschau)
- 名詞は、「場所」でも、どっちかというと抽象名詞的なものが多い： Immer wieder siegte sie *auf Schwimmfesten.*
- 必ずしも「場所」の概念にかぎらない： fragte ihn, ob er heute *auf der Kirchweih* mit ihr tanzen werde. (Heyse)

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞： 174, 176 - 184, 268 - 271 ページ； 文例集 (70) auf, aus： 65 ページ； 新ドイツ語大講座 II： 14 - 15 ページ。

㉓ 島, 半島, 星の世界などの auf

[格支配] 3 格, 4 格

[例]

Napoleon *auf* Sankt Helena | Der Stifter der stoischen Schule ist Zeno, aus Kittion, einer Stadt *auf* Cypem | Die Vorgänge *auf* dem Balkan finden in der westlichen Welt weiterhin starke Beachtung. (Z.) | Sie leben *auf* dem Mond. (Z.)

[参照箇所]

文例集 (29) 前置詞： 338 - 341 ページ。

㉔ 比率単位を表現する auf

[格支配] 4 格

[例]

Mit 201 Menschen *auf* den Quadratkilometer gehört Westdeutschland heute zu den am dichtesten besiedelten Gebieten der Erde. (Z.) 一平方キロあたり 201 人の住民を擁する西独は現在のところ世界有数の人口緻密な地域である | Eine Gewinnverteilung von 10 % für 18 Monate, *aufs* Jahr gerechnet also 6,67 %. (Z.) 十八ヶ月に対して一割の配当, という一年分に計算すると 6.67 パーセントである | “Nun, 25 646 geschiedene Ehen — das bedeutet immerhin einen Mehrzugang von ca. 51 300 geschiedenen Personen”, meinte Frau Dr. Meyer, “und das sind — warten Sie mal — das sind bei einer Bevölkerung von annähernd 40 Millionen

etwa 1,3 *aufs* Tausend.” (Z.) 「なるほど、25 646 組の夫婦が離婚した—すると、いずれにせよ、人選の目標が凡そ 51 300 口増えたわけですね」と Meyer 博士夫人は云った、「そうすると—ええと—そうすると、人間の数を大体四千万とすれば、千人に一人とコンマ三人ですか。」

[説明]

- 「比率単位」というと、さしずめ「... に対して」と考えるから *für* が一番に考慮に入ってくるであろうが、事実はそうではなく、もっとも普通なのは *auf* である。
- 「割り当て」(率) という観念にもっとも該当するのは *auf* で、これは「比率単位の定冠詞」と共に用いることが多い (*pro, je* は無冠詞が普通)。
- 比率一般の表現になぜ *auf* を用いるかという出立点は恐らく *A kommt auf B; A geht auf B; A entfällt auf B* (「A が B に該当する」, 「A が [割り当てとして] B の分となる」, 「B に対する分は [割り算をすると] A という量になる」), 特に *sich auf ... verteilen* (～に配分される) などの成句であろう：
In Deutschland kommt auf 80 Geburten eine Zwillingengeburt. (Z.) ドイツでは出産 80 件の中 1 件が双生児である。

[参照箇所]

文例集 (70) *auf, aus* : 376 - 379 ページ ; 冠詞 I : 992 - 995 ページ。

㊟ 距離

[格支配] 4 格

[例]

Sie dürfen seiner Nase ruhig trauen, / *Auf* Meilen riecht er Gold in Schrank und Beutel. (Schnitzler) | und bei dem ungewissen Schein des Neumonds konnte man kaum *auf* fünf Schritte vor sich sehen. (Hauff) | Manche Giftschlangen brauchen ihr Gift nicht unbedingt durch den Biß zu übertragen, sie können es auch ohne direkten Kontakt *auf* Distanz wirken lassen, nämlich durch gezieltes Spucken. (Z.) | Auch für die Streifen des Grenzschatzes hat man die Sicherheitszone *auf* hundert Meter festgesetzt, um jeden Zwischenfall zu vermeiden. (Z.) | Die Spitze der 3. Panzerarmee kämpfte sich *bis auf* 35 km an den Kreml heran. | Alle 15 bis 17 Jahre kommt der Mars der Erde sehr nahe, *bis auf* etwa 56 Millionen Kilometer. (Z.)

[説明]

- folgen ならば *in* : Wir folgten *in* 50 Meter Abstand. (Duden)
- Entfernung, Abstand は *in* : Sofort baute ich ein Zelt *in* fünfzig Schritt Entfernung auf.
- Entfernung や Nähe の時は *auf* でも *aus* でもよい : *aus* der nächsten Nähe.

- 4 格だけの表現にも注意：Alle Vögel werden verrecken, *zehn Meilen* im Umkreis. (Schenzinger)

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 271 - 284 ページ。

③⑩ 制限の auf

[格支配] 4 格

[例]

Einengung *auf* die beiden Hauptthemen.

[説明]

- 関連する動詞, 名詞の前つづり *ein-*, *Ein-* との対応あり。

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 311 ページ。

③⑪ 基礎の auf

[格支配] 3 格

[例]

Alles Vertrauen beruht *auf* Gegenseitigkeit. | Diese Hoffnung basiert *auf* der historischen Erfahrung, die gezeigt hat ... (Z.) | Verhandlungen seien nur *auf* der Basis der Anerkennung einer algerischen Nation möglich. (Z.) | Man hält drüben (in Holland) einen deutschen Verteidigungsbeitrag für unerläßlich. Es gibt keine Debatten darüber, daß er nur *auf* der Grundlage völliger Gleichberechtigung geleistet werden kann. (Z.)

[説明]

- beruhen, fußen, begründet sein, gründen, ruhen などの動詞と。

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 326 - 333 ページ。

③② 通路の *auf*

[格支配] 3 格

[例]

Endlich ging's *auf* einer Zugbrücke über einen tiefen Graben, ... (Hebel)

[説明]

- über を使っても同じ。

[参照箇所]

文例集 (70) *auf*, *aus* : 4 ページ。

③③ 線上の *auf*

[格支配] 3 格

[例]

Ein schlimmer Befund, *auf* der Scheide zwischen Heilbar und Unheilbar. (Carossa)

[参照箇所]

文例集 (70) *auf*, *aus* : 1 ページ。

③④ 楽器など

[格支配] 3 格

[例]

Immer wenn es Ebbe gab, tutete ein Mann *auf* einem Horn. (Z.) | So z. B. Paganinis erstaunliches Violinspiel sucht das Volk dadurch zu erklären, daß dieser Musiker aus Eifersucht seine Geliebte ermordet, deshalb lange Jahre im Gefängnis zugebracht, dort zur einzigen Erheiterung nur eine Violine besessen, und indem er sich Tag und Nacht *darauf* übte, endlich die höchste Meisterschaft *auf* diesem Instrumente erlangt habe. (Heine) | Wir konnten beide Musik machen, Hinnerk *auf* der Harmonika, ich *auf* dem Kamm. (Kröger) | Der junge Etienne nahm eine kleine Flöte heraus und blies *auf* ihr ein geistliches Lied, das anmutig weit durch die Berge schallte. (Tieck)

[説明]

- 「楽器」にかぎらない： Du bist ein Meister *auf* der Armbrust. (Schiller) | Ich kann *auf* der Maschine nähen, Namen sticken. Ich geh auch ins Waschen, Scheuern. (Westkirch) | Was ist eigentlich eine Sekretärin ? Was sie tut, weiß jeder ! Sie stenografiert, schreibt *auf* der Schreibmaschine, erinnert an dringende Verabredungen, erfindet manchmal zweckmäßige Ausreden und fertigt Besucher ab, die der Chef nicht sehen will. Für die angenehmeren Besucher kocht sie Kaffee. (Z.)

[参照箇所]

文例集 (70) auf, aus : 205 - 211 ページ。

注

- 1) 参照：佐藤清昭 (2000) : 関口存男による前置詞の意味分類 — 「激突急停止の in」 (ほか) と「前置詞論」一。所収：ドイツ語学研究 (冠詞研究会) 10, S. 11 - 48.
- 2) 参照：佐藤清昭 (2002) : 前置詞研究のあり方。「関口存男：前置詞論」試案 — an を例として。所収：浜松医科大学紀要 一般教育 16, S. 31 - 53.